



博物館[設計:安藤忠雄氏]3階展望ロビーからの田鶴山(正面)

中世山城跡—田鶴山—

清流・仁淀川が越知市街地付近で大きく北に蛇行し、南から流れてきた柳瀬川と合流する柴尾地区の西端に、田鶴山という西から見るとほぼ円錐形をした小高い山(206m)がある。南北朝時代末期に、越知町を含む高吾北地方一帯を支配していた第一の有力豪族・片岡氏の居城(「田鶴山城跡」)のあった所で、その頃は辺り一面田んぼで鶴でも飛来してきていたのだろうか、このような呼び名が付いている。緩傾斜の自然地形をそのまま残して築かれた防御体制の不十分な初期の古い形態の中世山城跡であるとされる。

また、後世には田鶴山周辺の仁淀川(正確にはここから数百m上流)では、上流にまだダムがなく水量の多かった昭和15年頃には、日本では現在既に絶滅したと考えられているニホンカワウソがエサを求めて泳ぐ姿も見られたという。

山の西側斜面では、一昔前は、「田鶴石」〔土佐の「青石」〕と称される中生代白亜紀前期〔約1億2000万年前〕の青灰色～緑灰色を呈する均質な砂岩が石材として切り出されていた。コンクリート

ブロックが普及する以前の昭和34～35年頃まで採掘が続き、擁壁や石垣、墓石等に利用されていた。この石材の連続が、横倉山自然の森博物館のすぐ下の山麓でもかつて採石されていたと言う。また、同様の石材は、ドイツ人地質学者・ナウマン博士が四国に地質調査に来た時〔1883(明治13)年か?〕、旧日下村と旧佐川村との境界付近(現佐川町)において「和泉砂岩」〔日本語訳〕が採掘されていることがルートマップに明記されている(『不思議の森から』vol.11)。

田鶴山の北東約1.5kmの所には、パラグライダー基地があり、春のゴールデンウィークや秋の行楽シーズンなどには、青空をバックにカラフルなパラグライダーが大空を悠々と飛び交う姿が見られる。博物館の3階展望ロビーのちょうど正面に田鶴山は位置し、秋にはその上空を、眼下の宮の前公園のコスモスとは対照的に、小輪の「花」が舞う。

仲秋の名月は、田鶴山の右側の越知盆地の上空をちょうど昇ってくる。

“土佐桜” 石灰岩は残った

安井 敏夫

“土佐桜”とは、高知県高岡郡越知町横倉山産の日本最古の4億年前の石灰岩に対する石材名である。淡いピンク色をした非常に上品で美しい石灰岩で、桜の花びらを思わせるところからそう呼ばれた。ピンク色の正体は、石灰岩がはるか南の赤道付近（低緯度）で形成されていた海域の近傍の陸地で活動していた火山から噴出した火山灰中の鉄分が酸化したものとされている。

昭和30～40年代に建築用石材として盛んに切り出されていたらしく、横倉山の山頂の尾根付近には露頭を切り出さしていた石切場が3～4ヶ所、南斜面の大きな転石を切り出していたものがやはり3～4ヶ所ある。もちろん、今は操業はしていない。

なにしろ、この“土佐桜”石灰岩は、地元高知県内はもとより、日本全国至る所で、ビルの壁や柱などの石材として使用されている。県内では、高知市民図書館、四国森林管理局（旧高知営林局）、高知大学人文学部棟、室戸市民図書館、高知東高等学校、安芸郡北川村役場（高知新聞社の調査による）、高知県立美術館（「石枕」：故 若林 奮作立体彫刻）等々。一方、県外では、東京の日本大学

文理学部本館、長野県の飯田市役所、国会議事堂南の衆議院第一議員会館、北海道札幌市の中央警察署（平成10年建て替え）等々と、その当時如何に人気が高かったかを伺い知ることができる。ただ、残念なことに、何故か地元越知町にそれを使用した建造物がなく、横倉山を愛する者としては実に寂しく、もったいない気がしていた。

そんな時、「2002年12月一杯で西武百貨店高知店（昭和33年建設）が閉館になる」というニュースを聞いた。仮に全面的な取り壊しになった場合、建物の一部に使用されている“土佐桜”石灰岩を何とか少し譲ってもらえないものか…そういう強い思いで、あらかじめ百貨店の担当の方にその旨お願いしておいた。建物もろとも解体されて、かつて一世を風靡した日本最古の造礁サンゴの化石を含む淡いピンク色をした美しい石材がただの石屑になるのが忍び難く、なんとかその一部でも残せないものか、再利用できないものかという切なる願いがあったからであった。

そんな訳で、周りがあまり関心を示さない中で、今回の話も駄目で元々という気持ちでいた。しば



“土佐桜”石灰岩（旧西武百貨店高知店の階段回りの壁に広く使用されていた）



ハチノスサンゴ（旧西武百貨店高知店）



クサリサンゴ（衆議院第一議員会館）

らくの間、ビルの買取先が決まらず長い時間が経過したが、2005年になってようやくビルの買い手が決まり、12月に入って間もなく所有者である大阪の(株)オーナーズ・ブレーンの担当者から連絡があり、会社側としても、ビル及びその周辺を活性化するためにも何とかして名物の“土佐桜”をうまく剥がし、その一部を新しくできるビルにも再利用したいという意向があることを聞いた上で、当方で必要な石材の枚数及び運搬方法・経費に関する予算的なこと等の打合せがあった。最終的に会社側は、使用されている石材すべてを自らが専門業者を雇って慎重に剥ぎ取り、大小計約200枚のうちの一部を計らずも越知町に無償で提供して頂いた。

石材は、一枚が63㍍×97㍍、厚さ2㍍、重量は40kg近くもあり、結局20枚も寄贈して頂くことになった。これだけの量があれば、今後もし町内に何らかの公共施設が建設されることがあった場合、そこのエントランスの一部にでも充分使用できる。会社側の意向としては、ビルの跡地に建設する商業ビル(テナント)の内壁にも一部活用し生かし

たいということであり、また新にこの場所で人々の目に触れ、その美しい異彩を放ってくれることであろう。

“浪速商人”の有りがたい粋な計らいによって、石材の原産地である地元越知町に“土佐桜”が残ることになった。地方紙の『高知新聞』がこのいきさつについて取上げてくれ、より多くの人々に関心を持ってもらうことができた。両者の御厚意が本当に有り難かった。

かつて、はるか南の赤道付近にあった4億年前の古生代シルル紀のサンゴ礁が化石になったロマンあふれる日本最古の化石を含む石灰岩“土佐桜”。目下その用途は不透明であるが、再びその輝きを放つべく地元越知町の横倉山自然の森博物館の倉庫でその出番をじっと待っている。

※ 国会議事堂内に使用されている国内産の石材については、その産地・石材名を明記したリストが残っているが、その中には横倉山産の“土佐桜”の名はない。あるのは、徳島県木頭村産の同じ古生代シルル紀の類似の石灰岩が“曙”という石材名で使用されているという

(やすい としお／横倉山自然の森博物館副館長兼芸芸員)

コスモスが取り 持った友好の輪



越知町は、1997年から兵庫県宝塚市に「阪神・淡路震災復旧支援活動」の一環である「コスモス公園づくり」のために越知町のコスモスの種を提供する事業を続けてきた。事業は毎年行われ、活動のピークだった越知町のコスモスのまちづくり推進会、観光協会、町内の小学生たち総勢35名と共に参加した5年前の2001年7月14日には、一俵分のコスモスの種を携えて訪れた。「コスモスのまちづくり推進会」の故北川勝一会長から正司宝塚市長にコスモスの種が贈呈され、炎天下の武庫川河川敷に、宝塚市民と合同で種まきを行った。その後武庫川の河川敷も秋には色とりどりのコスモスが咲き乱れ、長い間市民の目を楽しませていたという。

そもそも、この事業を提案したのが、横倉山自然の森博物館の設計に携わった世界的建築家・安藤忠雄氏であった。越知町は博物館の眼下に広がる宮の前公園での秋のコスモスまつりが毎年盛大に行われ、今では、“コスモスのまち”越知町と言わ

れるほどになった。阪神・淡路大震災〔1995.1.17〕で甚大な被害を蒙り、打ちひしがれた人々に心のもし火をといた安藤氏の思いで活動が起こり、これが元で両市町間に“友好の輪”が広がり交流が始まった。

残念ながら、事業は諸事情で3年ほど前に中断してしまい、その時の北川会長も今年の6月30日、病氣療養中に亡くなられた。だが、会長はもとよりこれまで事業に携わってきた人々の意志は、越知町と宝塚市を彩る美しいコスモスの花から種そしてまた花へといつまでも受け継がれていくことであろう。



コスモスの種を蒔く在りし日の北川会長(2003年7月)

みんなで調べた越知町の哺乳動物

谷地森 秀 二

平成17年度、NPO法人四国自然史科学研究センターは越知中学校、横倉山自然の森博物館と連携して、越知町に生息する哺乳動物について調査研究活動をする機会を得ました。ここでは、その活動内容と事業を通じて知りえた越知町に生息する哺乳類についてご紹介します。なお、この活動は(独)科学技術振興機構が実施している平成17年度地域科学館連携支援事業をうけて実施されました。

活動の項目は、講座、野外調査および展示会など多岐にわたりました。

講座は、主に越知中学校で実施しましたが、他に博物館内や野外においても行いました。内容は、当センター研究員による四国の哺乳動物に関する講義、巣箱・無人撮影装置などの調査機材の組立、動物の体のつくりを知るための解剖会、越知町における人と野生動物とのかかわりについて、狩猟者、町役場の鳥獣行政担当者、農家、研究者などさまざまな立場の方から現状を聞く講義、農作物被害を受けている農家への視察などでした。

野外調査は、小型のネズミ捕り器による捕獲、足跡などの痕跡の確認、巣箱の利用状況、無人撮影装置をもちいた調査、交通事故死体の収集、町民への聞き取り、狩猟個体情報の収集、洞窟調査などを実施しました。調査によって越知町内で生息が確認された哺乳動物を、表にまとめました。確認できた哺乳動物は7目12科18種でした。いくつかの種について簡単に生息状況をご紹介します。

○タヌキ

今回の調査で、最も多くの情報を集めることができた動物です。調査期間中に交通事故にあった個体も回収しました。越知町には、広い範囲にとっても多くのタヌキがすんでいるようです。



〔タヌキ〕

昔から人里近くに住んでいて、昔話にもよく登場する馴染み深い動物です

〔キツネ〕

12月9日に、南ノ川地区で交通事故にあつて死んでいました。この個体は剥製標本ににして、博物館に収蔵されています。



○キツネ

高知県内においてキツネは、タヌキに比べて情報量が少ない動物です。今回の調査では越知町内で4例の情報を得られました。四国のキツネを考える際に、とても貴重な結果であるといえます。

○ニホンリス

今回の調査でニホンリスの生息情報が得られた地域は、横倉山の周辺だけでした。ニホンリスは森林に依存して生活する動物です。横倉山の原生林がとても貴重であることが、あらためて判りました。

○ニホンジカ

今回の調査では、片岡地区で目撃情報が一度だけ寄せられました。そのほかには情報はなく、越知町内にはほとんどすんでいない動物のようです。

○ニホンザル

無人撮影装置で1回だけ撮影されました。越知町では、これまでもとときニホンザルは見かけられたようですが、散発的な情報ばかりです。年間を通じて町内に住んでいる個体はいないようです。

今回の調査で越知町内で確認された哺乳類は18種でしたが、その他にあと一息で生息確認ができそうだった動物がいました。イタチもしくはチョ



〔ニホンザル〕

今回の調査で得られた唯一の情報です。撮影日時は1月11日12時32分でした。たくましい背中、赤いお尻が写っていました。

ウセンイタチ、ヤマネ(国の特別天然記念物)もしくはモモンガ、それに、アズマモグラもしくはコウベモグラの3種です。

これらの調査を通じて、確認できた種ごとに分布図をつくり、生息状況、野生動物と人との間に生じている問題等についてもあわせて概要をパネルにまとめました。また、調査の過程で収集した資料については、可能な限り標本化し博物館に収蔵するように努めました。

これらの活動を基に開催された展示会が「平成17年度春の企画展 みんなで調べた越知町の哺乳動物」です。会場には調査結果をまとめたパネル、本剥製標本(23種45個体)、全身組立骨格標本(11種11個体)が展示されました。また、企画展の内容を掲載した展示図録を作成し、本事業に参加した中学生および協力者に配布されました。今回の活動によって越知町には多くの哺乳動物が生息していることがわかったことは、越知町、そして高知県、四国地域の哺乳類学にとって意義のあることです。今回の成果はこれだけではありません。今回のように地域の哺乳動物の生息状況を把握する調査を実施するうえで、住民や中学生の協力を得ながら進められた活動は四国地域ではほとんどありません。本活動が地域の博物館、生徒・児童を含めた町民の皆様、野生動物の専門家である当センターが連携して行えたことが、最も大きな成

果であったのではないかと感じています。

当センターは今後も博物館と連携して、越知町において更に踏み込んだ哺乳動物の研究、そして鳥類や両生類、爬虫類なども対象にして越知町の自然史科学の記録を蓄積していく活動を継続していきたいと思っています。そして、住民参加型の調査研究手法を四国のほかの地域でも実施していけたらと考えています。

目	科	種
モグラ目	トガリネズミ科	ジネズミ
	モグラ科	ヒミズ
コウモリ目	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ
		コキクガシラコウモリ
サル目	オナガザル科	ニホンザル
ウサギ目	ノウサギ科	ノウサギ
ネズミ目	リス科	ニホンリス
		ムササビ
	ネズミ科	カヤネズミ
		ヒメネズミ
アカネズミ		
ネコ目	イヌ科	キツネ
		タヌキ
	イタチ科	テン
		アナグマ
ジャコウネコ科	ハクビシン	
イノシシ科	イノシシ	
ウシ目	シカ科	ニホンジカ
7目	12科	18種

(やちもり しゅうじ/NPO法人四国自然史科学研究センター センター長)

博物館ニュース

夏休み博物館教室 〔昆虫〕

2006年8月5日(土)〔講師：山崎三郎(高知県自然観察指導員)、参加者：小人7名、大人9名；事務局2名〕

植物の宝庫として牧野富太郎博士も分け入ったことのある石灰鉱山・鳥形山(標高：1295m、仁淀川町)において、“渡り蝶”として知られるアサギマダラ(タテハチョウ科)を採集し、採集場所・日時・採集者名をマーキングして放すことにより、その渡りのルートや飛行距離等を明らかにすることを目的とする。普通の蝶と違って翅に鱗粉が少ないためマジックペン(油性)で簡単にマーキングができ、渡りを調査するのに適している。

アサギマダラは、春に南方から北上して日本にやって来て、秋に南下する季節的な移動をし、最高1680kmも渡りをしたという記録がある。しかしながら、その詳しいルートや行動パターンなどはまだよくわかっていない点が多い。幼虫の時はキジョラン(ガガイモ科)などの葉を食べて越冬し、成虫は秋までに1、2世代を繰り返す、ヒヨドリバナやイケマなど(共にガガイモ科)の蜜を吸いに集まってくる。ガ

ガイモ科の植物にはどれもP.A成分[ピロリジジン・アルカロイド]と呼ばれる鳥が嫌がる毒素が含まれており、アサギマダラはそれを食べることによって鳥からの捕食を免れているという。気温が26℃以上になると活動が鈍り、姿が見えなくなるそうだが、鳥形山は標高が高く真夏でも26～28℃なので、「鳥形山森林植物公園」内を植物観察しながら展望台に向かい、そこで昼食を取って午後1時を過ぎて帰宅する途中でもまだアサギマダラが確認された。



博物館ニュース

この日は、全部で二十数頭のアサギマダラが確認されたが、実際に採捕・マーキングされたのは8頭であった。それでも参加チーム7組全員がマーキングでき、記録帳に採捕した時刻、オス・メスの区別、前翅長などを記入して元の自然に帰し、今後の情報収集に夢を託すことができた。

〔植物〕

2006年8月12日(土)〔講師：恒石直和(前高知市子ども科学図書館館長)、参加者：小人14名(大学1、幼児1)、大人12名；事務局2名〕

最初3階展望ロビーで、紙芝居を通じて牧野富太郎博士のおいたちを学ぶ。博士は自分の専門である植物学に関連性のあるいろんな学問を積極的に吸収し、幅広い学問を目指したことはよく知られているが、そればかりか聖書に植物のことがどのように書かれているかを知りたくて15種類の聖書を購入したといい、学問に対するこだわり、徹底さを感じられる。

次に、顕微鏡を使って、ジャガイモの澱粉とツククサの気孔を観察し、植物の構造・仕組みについて学ぶ。



割を持っていることがわかる。

教室に参加した子どもたちの感想の中で、「不思議なことがいっぱいあって楽しかった」といったような自分なりに何かを発見したことは有意義であったといえる。

〔化石〕

2006年8月19日(土)〔講師：安井敏夫(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者：小人9名(幼児2)、大人9名；事務局1名、補助2名〕

当初仁淀川の支流・坂折川の河原で、河原の岩石の勉強と4億年前のシルル紀の石灰岩に含まれる化石を探す予定であったが、台風通過による河川の増水でできなくなったため、屋内でやることとした。



最初、仁淀川の岩石の種類豊富な岩石について学習し、その後、あらかじめ河原で採集しておいた石灰岩を希塩酸を使って慎重に腐食し化石を

洗い出す。シルル紀を代表するクサリサンゴ、ハチノスサンゴ、日石サンゴ、四射サンゴ等のかつてのサンゴ礁を形成していたサンゴの化石が得られた。貝やアンモナイトの化石のようなわかりやすいものではなかったが、肉眼で確認できる大型化石としては日本最古の4億年前の化石にロマンを感じ取ってもらえたと思う。

〔工作教室〕

2006年8月27日(日)〔講師：橋本 優(リサイクル万華鏡協会)、村田國翁(大阪府立鳥飼小学校教諭)、参加者：小人10名(幼児2)、大人10名；事務局2名〕

博物館3階展望ロビーにおいて、昨年引き続き、「オリジナル万華鏡」作りを行う。

3枚のミラーを二等辺三角形に組み、紙製の



円筒内に固定し、先端にプラスチック製の試験管をセットする。円筒の表面に自分の好きな図柄・模様を包装紙や千代紙を貼り、試験管にさまざまな色・形・大きさのビーズ玉を入れ、水のり(洗濯のり)：水=1：1の液体を一杯注ぐと出来上がる。ポイントはビーズ玉の色の配合と量、それに、液体の濃度。ビーズ玉が試験管内をゆっくり落下していく間に次々と違った模様が展開され、まるで打ち上げ花火を見ているかのようだ。1時間足らずで各自違った夢のある“オリジナル”な万華鏡ができたようだ。

余った時間を利用して、35mmフィルムのケースとストローを使った笛(“オカリナ”)を作る。身近な材料で実にいろんな作品が手軽にでき、おもしろみがある。

企画展：『カメ・ふしぎ発見!』

〔2006年7月22日(土)～9月3日(日)、協力：近藤裕士氏(ヌマガメ ブリーダー)；『どうぶつ奇想天外!』に出演〕

鶴とともに吉兆を表す“めでたいもの”、“長寿”の象徴として古来日本人に親しまれてきた生き物である「亀」について、人とかかわりを中心に、環境保護の観点から亀について考える機会とした。

日本固有種のニホンイシガメやクサガメ、スッポンを始め、ミドリガメ・キボシイシガメ・ミツユビハコガメ・コガネハコガメ等実際に生きたカメ〔8種〕を水槽と水庭(池)で飼育展示し、剥製や巨大陸亀・アルタプラゾウガメの骨格標本等による体のしくみとその不思議・歴史について学習してもらおう。水槽で飼われている子ガメのしぐさの可愛さには誰もが思わず目を細めてしまう。さらに、亀および亀甲紋様をモチーフとした江戸時代の刀の鐔、簪、文鎮、花留等の生活品を通じて、“縁起物”としていかに日本人の生活と古くから密接に関わってきたかについても認識してもらおう。自然界には、亀甲模様で代表されるように、軽くて丈夫な「ハ



ニカム構造」がいかに多いかがわかる。カメがハ虫類の中で最も原始的で強靱な構造をもち、ゾウガメ(巨大陸ガメ)の最高寿命が250歳であることや、カメ(淡水ガメ)が水中に潜ったまま約3ヶ月間冬眠するなど、驚異的で不思議な点が多い。

企画展恒例の亀に関する「Q & A」や「間違いさがし」で、より亀についての理解を各自体験によって深めてもらった。有名業者の製作による精巧なカメのフィギア(40点)も人

気を呼んでいた。

感動的であったのは、野生のカメが人間の手から直接エサを取って食べるまでに慣れたことと、企画展開始前に水槽で飼育していたニホンイシガメが産んだ卵が近藤氏宅の孵卵器の中で、企画展終了後の9月13日見事孵化したことである。特に、本来土の中に産卵する(カメはすべて)卵が水中に産卵されたため、24時間以内に水中から取り上げなければ胎児は死んでしまうという絶妙のタイミングの下での生命の誕生であっただけに、感激も一人であった。卵を見つけるのが早かったのと、その後の対応・処置が良かったため、幸運にも小さな一つの“命”が救われた。私自身にとっても、命の大切さ・尊さを痛感した企画展であった。



友の会だより

「梶ヶ森植物観察」

2006年4月29日(土・祝)〔講師：恒石直和、参加者：会員25名〕

西に石鎚山、東に剣山、そして、眼下に吉野川を望む標高1400mの梶ヶ森(長岡郡大豊町)。県立自然公園内にあり、山頂からの展望は大パノラマの絶景で、天気の良い日には太平洋や瀬戸内海を見渡せるらしいが、この日はあいにくの小雨模様で霧が立ち込め視界は悪かった。その代わりに、途中の「龍王の滝」(日本の滝百選)に至る登山道沿いには、牧野富太郎博士の発見・命名によるトサノミツバツツジ[横倉山タイプ植物]や岩上の満開のアケボノツツジ、それに、コウヤノマンネングサ、コチャルメラソウ、コミヤマカタバミ等を観ることができた(写真1)。

山麓の2300年前の眠りから覚めた古代蓮の『大賀蓮』で有名な「定福寺」では、万葉集を始めとする古い日本の和歌に詠まれた植物が庭園の遊歩道沿いに和歌と共に植えられた「万葉植物園」があり、丁度の見頃で、シャクナゲ、キシツツジ(八重)、コウゲイスカグラ、絶滅危惧種のアツモリソウ等のいろんな植物・花を楽しむことができ参加者は皆ご満悦であった(写真2)。



〔写真1〕

最後に、高知県内にある三つの国宝の一つ、「豊楽寺薬師堂」[1151年建立]を見学する。古代(奈良時代)の往還沿いにおいて、こけら葺きの屋根は鳳凰が翼を広げたように端正でいて優美で、平安後期の藤原時代の建築様式を今に伝える四国最古の建造物で、“四国の法隆寺”とも呼ばれる(写真3)。



〔写真2〕



〔写真3〕

「杉原神社のヒメボタル観察会」

2006年6月27日(火)〔参加者：会員22名、一般2名〕

800年以上の歴史をもち、境内に推定樹齢500~600年の大杉の林立する杉原神社付近において、陸産貝を主食とする小型のヒメボタルの観察を行った。チカッ チカッと真暗な森の中でほのかな光を放つホタルが、かつて安徳天皇の従臣の屋敷25軒があったといわれる「都(“天の高市”)」で飛び交う姿は幻想的で、どうしても平家一族の亡き御霊と重複して観てしまう。

「夜の昆虫観察会—桐見川小学校キャンプ—」

2006年7月22日(土)〔講師：山崎三郎、参加者：会員14名、協力：NPO法人四国自然史科学研究センター〕

休校となった町内の小学校を活用し、校庭に設置したブラックライトに集まってくる昆虫を捕獲・観察する。鱗翅目の蛾を筆頭に甲虫目のカブトムシ・ミヤマクワガタ・ウスバカミキリなど5日21科65種が観察された。観察会終了後校庭にシートを貼りキャンプを行なって親睦を計った。

横倉山ミニ歳時記

■アオバズクへの思いやり

越知町市街地から少しはずれた住宅街のT字路脇に樹齢百年以上にもなる大きなセンダンの木があり、その木の洞でここ何十年来毎年アオバズク〔フクロウ科〕が子育てをしているという。アオバズクはアジア特産で、日本には青葉の茂る5月頃やって来るので「青葉木菟(ミミズク)」の字が当てられているようである。

今年はそのセンダンの木が大きくなりすぎたため、高知県中央西土木事務所の職員が剪定するために事前に訪れたところ、真ん丸い黄色の縁取りのある“金環日食”のような目をした愛嬌のあるアオバズクのヒナ3羽が親と一緒に木の枝に止まっていた。巣立ちが間近いことがわかり、ヒナが無事育つまで剪定を延期することになった。動物に対する人間の思いやりと微笑ましい光景で、殺伐とした世の中であって何とも心温まる話であった。

最近は営巣によく利用されるケヤキなどの大木が減少し、アオバズクの繁殖する場所や数が少なくなっているという。剪定後も今までどおりここでヒナの子育てを続けて欲しいものである。



(写真提供：竹森雅孝氏)

〔博物館日誌(抄)〕(‘06.4～9)

●3月11日(土)～5月14日(日)

企画展：『みんなで調べた越知町の哺乳動物』
〔地域科学連携支援事業、協力：NPO法人 四国自然史科学研究センター〕

●7月22日(土)～9月3日(日)

企画展：『カメ・ふしぎ発見!』
〔協力：近藤裕士(ヌマガメ プリーダー)〕

●8月5日(土) 夏休み博物館教室〔昆虫〕

●8月12日(土) 夏休み博物館教室〔植物〕

●8月19日(土) 夏休み博物館教室〔化石〕

●8月27日(土) 夏休み博物館教室〔工作〕

●9月23日(土・祝)～11月5日(日)

企画展：『おもしろアニマル フォトコンテスト&写真展』

〔博物館友の会「フォレストクラブ」の平成18年度活動予定〕

●4月29日(土) 梶ヶ森植物観察

●5月5日(金・祝) 呈茶-博物館3階展望ロビー-

●5月20日(土) 友の会運営委員会

●5月27日(土) 友の会総会

●6月10日(土) 炭を焼こうⅠ

●6月27日(火) ヒメボタル観察会-杉原神社-

●7月22日(土) 昆虫観察キャンプ-桐見川小学校-

●8月26日(土) スターウォッチング-博物館3階展望ロビー-

●9月24日(日) 秋の横倉山ハイキング-旧往還～三嶽古道-

○10月28日(土)、29日(日)

伊吹山の自然と山内一豊ゆかりの長浜城(滋賀県)視察研修〔1泊2日〕

○畝傍山眺望所の樹木を守ろう〔高知県森と緑の会公募事業〕

○炭を焼こうⅡ

○クリスマスリース教室

○初日の出を横倉山で

○冬の星空観察会

○炭を焼こうⅢ

スタッフの声、声、声

〔片岡〕 9月のある雨の日、横倉山へ登りました。時折激しく傘を打つ雨音と雨の止み間に鳴くツクツクボウシの声以外は何も聞こえない神秘的な雰囲気。こんな日に登山者はいないだろうと思いきや、TVの取材クルーと思しき3人連れに遭遇。どこの局でどんな映像を見せてくれるのか楽しみです。

〔西川〕 朝夕急に涼しくなり、秋を感じる今日頃ごろです。虫の音を聞きながら月見なんかいかがですか。秋の横倉山にハイキングに出かけるのもいいですね。めったにお目にかかれない稀少植物を見つけたときの感動は忘れられないですよ。大切に见守ってあげてください。

〔安井〕 夏の企画展のために今年の春から水槽で飼って続けた野生のニホンイシガメとクサガメが今では手から直接エサを取って食べるようになった。企画展に合わせて博物館の水庭(池)で飼育展示している一番大きなニホンイシガメは、私がエサを与えに行くと遠くから泳いで寄って来るという可愛さである。野生のカメがここまで人になつくととは想像もしなかったことである。生き物って本当に可愛いものである。動物に対する思いやりを大切

にしたいという気持ちが一層強くなった。

〔小松〕 今、この博物館の水庭にはイシガメやクサガメが7匹います。10月の末ごろまでここにいる予定です。安井副館長は毎日それぞれのカメを呼んでなにやら話し掛けています。カメも首をぐっと伸ばして安井副館長を見つめています。いいところだなと思います。

〔小野〕 暑さを満喫した今年の夏ですが、もう1つ満喫したものがありません。それは「ミノムシ」。庭の柿木からパリパリと音がすると思ったら、見たことのない位のミノムシさん達がお食事していました。しかし、先日半分ほど枝を落としてミノムシさんとはお別れしました。皆さんの所では大量発生してないですか？

〔伊藤〕 気付けば蛙の合唱は終わり、ガチャガチャガチャガチャと虫の音が聞こえるようになりました。家の中でティーティーティーと甲高く虫が鳴き、コオロギが飛び跳ねているのを見て、今年も秋が来たなあ実感しました。

高知県越知町立



〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620
http://www.town.ochi.kochi.jp/

- 開館時間：午前9時より午後5時まで
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
12月29日から翌年の1月3日まで
- 入館料：大人……………500円(※各20名以上の団体は100円引き)
高校・大学生……………400円
小・中学生……………200円
- 越知への交通
高知——JR特急約30分——佐川——バス約15分——越知
JR普通約50分

